

第8回八代海域調査委員会議事要旨

【1】開催日時

平成14年9月30日(月) 14:00～16:30

【2】開催場所

KKR熊本(1F 有明・不知火の間)

【3】出席委員(敬称略)

委員長 弘田禮一郎 熊本大学名誉教授

委員

(学識経験者)

大本 照憲	熊本大学工学部助教授
門脇 秀策	鹿児島大学水産学部教授
楠田 哲也	九州大学大学院工学研究院教授(欠席)
篠原 亮太	熊本県立大学環境共生学部教授(欠席)
滝川 清	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授
堤 裕昭	熊本県立大学環境共生学部教授
逸見 泰久	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター助教授

(敬称略 50 音順)

(漁業者代表)

松本 忠明	熊本県漁業協同組合連合会代表理事会長
宮本 勝	熊本県漁業協同組合連合会第三部会長
福田 諭	熊本県漁業協同組合連合会第四部会長
桑原 千知	熊本県漁業協同組合連合会第五部会長
沖崎 義明	熊本県漁業協同組合連合会第六部会長
赤崎 辰雄	鹿児島県東町漁業協同組合代表理事組合長
(代理)波戸親志	営漁指導課長

(敬称略 50 音順)

(行政関係者)

森田 安雄	水産庁九州漁業調整事務所振興課長
工藤 啓	国土交通省九州地方整備局河川部河川調査官
尾坐 巧	国土交通省九州地方整備局港湾空港部海域環境・海岸課長
久保 一昭	海上保安庁第十管区海上保安本部海洋情報部海洋調査課長
本山 茂夫	気象庁長崎海洋气象台業務課長
桑島 偉倫	国土交通省八代工事事務所長
塚原 健一	国土交通省川辺川工事事務所長(欠席)
今永 繁	国土交通省熊本港湾空港工事事務所長
(代理)小原 和行	副所長
田北 成樹	熊本県環境生活部環境保全課長
(代理)河野 孝一	水保全対策室長
望月 一範	熊本県企画振興部企画課長
(代理)古里 政信	川辺川ダム総合対策室長
東 憲一郎	熊本県土木部河川課長
(代理)宇藤 信幸	土木審議員
板崎 清	熊本県林務水産部水産振興課長
(代理)岩下 徹	水産審議員
伊勢田 弘志	熊本県水産研究センター所長
前田 和宏	鹿児島県水産試験場長

(敬称略順不同)

(オブザーバー)

杉田 金義	八代漁業協同組合代表理事組合長
平山 隆夫	熊本県企業局企業審議員
長田 京司	電源開発(株)九州支社西日本支店支社長代理

(敬称略順不同)

【4】配付資料

議事次第

資料－1 出席者一覧

資料－2 配席表

資料－3 第7回八代海域調査委員会以降の経緯

資料－4(1) 第8回八代海域調査委員会 提言書(案)

資料－4(2) 第8回八代海域調査委員会 提言書資料(案)

資料－5 第8回八代海域調査委員会 資料

【5】議事次第

1. 開会

2. 議事

(1)前回の委員会からこれまでの経緯説明

「漁業者代表・行政関係委員」意見交換会等

(2)提言書(案)について

保全対策の方向性、モニタリング計画

(3)現地調査結果について

①八代海底質・底生生物調査(春期)

②八代海流況・水質等調査(夏季)〈速報〉

(4)その他

【6】議事要旨

1. 前回の委員会からこれまでの経緯について

(議論の結果)

- ・ 特になし。

2. 提言書(案)について

(議論の結果)

- ・ 提言(案)については、次回委員会にて引き続き審議する。

(議論の要旨)

- 課題の抽出については、「水質の保全」だけでなく、「水量」についての記述も必要ではないか。
- いろいろな意見が出されているが、それらに対する関係各機関の回答をQ&A型式で資料としてまとめてもらえればわかりやすい。
- 覆砂については、最近では覆砂のための海砂利採取に伴う弊害が指摘されており、注意が必要である。
- 「保全対策の方向性」については、「有害赤潮の発生」「沿岸性魚介類の減少」の2つを課題として取り上げているが、八代海域の保全を総合的に図っていくための課題を、この2つに限定すべきではない。
- 「熊本県の養殖負荷量」の値について、1995年に比べ2000年が下がり過ぎではないのか、現実を正確につかまないと対策が講じられない。提言に大きく影響してくる問題であるので、養殖に伴う窒素、リンの影響が大きいのか、小さいのかをはっきりさせる必要がある。
- 調査研究のための予算や人材の確保まで考えた、踏み込んだ提言を行う必要があるのではないか。
- モニタリングの調査地点については、地点数を増やす等、もっと調査の精度を上げなければ、答えは出ないと思う。
- 養殖負荷量は、生産量の減少と給餌形態及び餌の質が変わったこと等により下がっている。
- モニタリングの地点選定にあたっては、各機関における調査点の設置経緯や目的を考慮すべきである。
- モニタリング調査については、その継続の必要性を述べるとともに、昨年から今年にかけて実施した調査結果等から問題点やわからない項目の抽出にとどめ、モニタリングの実施は、実施主体にまかすことはできないか。
- 「赤潮の発生要因」の中に川辺川ダムが建設された場合の水質面での影響について無視し得る程度との記載があるが、「水量」も重要な問題であり記述すべきである。
- 川辺川ダムが建設された場合の海域水質の変化を予測したシミュレーションについては、水量の変化も入れた形で評価しているので、そのように追記する。
- 「赤潮の発生要因」の中で「赤潮発生と栄養塩との直接的な関係は見られなかった」とあるが、平均水質で比較していることが問題である。つまり、赤潮発生前、発生中、発生後のデータが混在しているため、傾向がみられなかったと思われる。赤潮が発生すると海水中の栄養塩が取り込まれてしまうの

で、むしろ赤潮の発生する以前の水質が重要である。

- モニタリングの特定課題調査は、「大規模な有害赤潮等、予期せぬ事態の発生時に調査を実施する」とあるが、大規模な場合に限らず、小規模なうちに早期発見及び対策が必要であり、そういうことが対応可能な体制づくりが必要ではないか。
- 漁業者の皆さんは、水質データ等の専門用語がわかりにくいと思うので、専門用語等について講習会等を行い、漁業者自ら水質測定等を行うようにすれば良いのではないか。
- 赤潮の発生メカニズムはよくわからないとのことだが、一般的に洪水後に赤潮が発生するという認識である。昭和50年代から漁業養殖が始まったが、昭和40年代にも真珠養殖で赤潮の被害に悩まされてきており、今に始まった話ではない。
- 最近海の透明度がよすぎる。八代海域自体が南方系に変わってしまったような気がする。
- 「赤潮の発生要因」の中に「川辺川ダムが建設された場合、水質面での影響は無視し得る程度」との記載があるが、水質だけでなく水量も重要であり、水量と水質が生態系にどう影響を与えるのかを知りたい。
- 海については、実は90%以上のことがまだわかっていないのが現実であり、「生態系全てについて何も影響がないのか」と言われると何ともいえない。
- ダムが海域へ与える影響については、現時点の知見では、水質でしか評価しようがなく、水質面で見ると影響は無視し得る程度ということなので、生態系についても同様のことが考えられる。しかし、これは自然現象であり不確実な部分もあるので、不測の事態が起こらないようモニタリング監視を 行っていくものである。
- 干潟の減少には球磨川の既設3ダムが一番影響しているのではないか。
- 「赤潮の発生要因」については、海象・気象・地象等のメカニズムが複雑に絡み合った面があり、地球規模的な気候変動の影響も考えられることから、もっと詳しく記述した方がよいのではないか。
- 海というのは本当に分からないことが多いが、環境が悪化しているのは確かである。もっと実効的な数値を定めた提言にしてほしい。

3. 現地調査結果について (議論の結果)

- 特になし。

4. その他

- 次回委員会については、提言(案)の修正等が出来次第、開催する。
- 今回の質疑応答の内容は、発言者を特定しない形で議事要旨としてまとめたものを委員長が確認したうえでホームページにて公表する。